

平成 25 年 5 月 9 日 定例記者会見提供資料

「鈴鹿の記憶―戦中・戦後の証言と資料―」の刊行について

調査・編集事業について

鈴鹿市は、昭和 17（1942）年 12 月 1 日、鈴鹿郡・河芸郡の 2 町 12 村が合併して誕生しました。それに先立つ昭和 13 年には鈴鹿海軍航空隊が白子地区に開隊し、昭和 18 年には鈴鹿海軍工廠が牧田地区を中心に設立されました。鈴鹿市誕生の背景には、これら当地域への軍事施設進出のための人的・物的需要を満たすことを目的に周辺町村の合併が行われた経緯がありました。そのため、鈴鹿市のあゆみと戦争、特に軍事施設との関わりは非常に強く、これをおいて当市の歴史を語ることはできません。

しかし、戦後約 70 年を経過し、当時を知る人々―戦争と直接向き合い、復興の基礎を築きあげてきた人々の直接の声を聞くことができる機会が、その高齢化に伴い確実に失われつつあるのが現状です。海軍工廠をはじめとする軍事施設の進出および敗戦による撤退が市民生活に与えた影響の大きさは計り知れませんが、その実態はほとんど伝わっておらず、個々の記憶の中にとどまっているにすぎません。戦中・戦後の激動の時代に、鈴鹿市民がどのような体験をし、この地域に何が起こり、何を見て、どう生きてきたのか。一人でも多くの方々から、その記憶を拾い上げ記録として保存することは、今しかできない不可欠な作業です。そして、戦争及びそこからの復興を直接知らない世代にとって、この記録は今後、鈴鹿の戦中・戦後を知る貴重な資料になることでしょう。

上記のような理由から、本報告書の作成事業はスタートしました。昨年 5 月には 75 歳以上 5,000 人の市民へアンケートを配布し、1,500 通以上の返信を頂きました。その後、アンケートの内容から約 90 名のインタビュー対象者を選考し、6 月から 9 月にかけて聞き取り調査を行いました。その内容を証言編として掲載しております。

また、証言だけでなく、その証言を裏付ける資料（新聞や公文書、写真など）の調査を行い、資料編としてその成果を掲載することにしました。さらに、各分野の学識経験者からご寄稿をいただき、寄稿編として掲載しております。

今回の事業は、調査・編集期間が 1 年弱と言う非常に短い単年度事業であったため、本書においては資料性を優先し、なるべく多くの証言と資料を収載することに重きを置きました。

冊子について

大きさ A4 サイズ

ページ数 482 ページ

内容 口絵

寄稿編…郷土教育・軍事史・近代史の各分野からご寄稿をいただきました。

証言編…約 90 人分の証言を掲載しています。

資料編…伊勢新聞データベース 昭和 20 年代の地図 年表 市制施行当時の資料 鳥取県立公文書館に保存されている海軍工廠長・齋尾慶勝の資料などを掲載しています。

発行部数 1000 冊（うち 500 冊を販売）

配布先 市内小中学校・公民館 市立図書館 県内図書館 関係機関
インタビュー協力者など

販売について

販売場所 市役所本庁舎 11 階 文化課窓口

価格 2000 円（税込）

販売数 500 冊

販売開始日 6 月 3 日（月） 8：30～

【問い合わせ先】 文化課 （担当 神・宮崎・代田） 電話番号 382-9031